

広報チームが行く！



鳴瀬川ダムの目的を 知ろう！の巻



Vol.9(2021/03/23)



国土交通省 東北地方整備局
鳴瀬川総合開発工事事務所

広報チームは、鳴瀬川総合開発事業及び関連する地域の情報を様々なメディアを活用し「親しみやすく」「わかりやすく」広報する事を目的に令和2年6月に鳴瀬川総合開発工事事務所の職員で結成したチームです。

鳴瀬川ダムの目的

“[広報チームが行く！Vol.8](#)”ではダムカードについて解説しました。この中において「ダムの目的」を紹介しましたが、今回は、鳴瀬川ダムがどんな目的で建設されるのか紹介します。

鳴瀬川ダムには4つの目的があります。それは、洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい、発電の4つです。

洪水調節

大雨※1が降った際に、ダム建設地点を最大660m³/sの洪水が流れることを想定しています。この洪水の一部を鳴瀬川ダムに貯め込み、30m³/sに調節して放流します。これにより、鳴瀬川中下流域の洪水被害※2の低減を図ります。

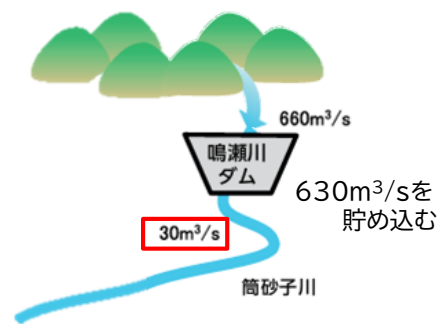
※1 鳴瀬川ダムの計画において想定している規模の降雨

※2 家屋、農地等の浸水、公共交通機関の麻痺等

現況



完成後



流水の正常な機能の維持

川は、流れる水の浄化や生物の生息環境の保護、漁業や観光の場になる等、様々な機能をもっています。しかし、渇水になるとこの機能を維持することが難しくなります。

鳴瀬川ダムは、鳴瀬川及び田川の水量が少ないとき、水を流し水量を増やすことで、鳴瀬川ダム下流において流水の正常な機能の維持と増進を図ります。



平成6年撮影



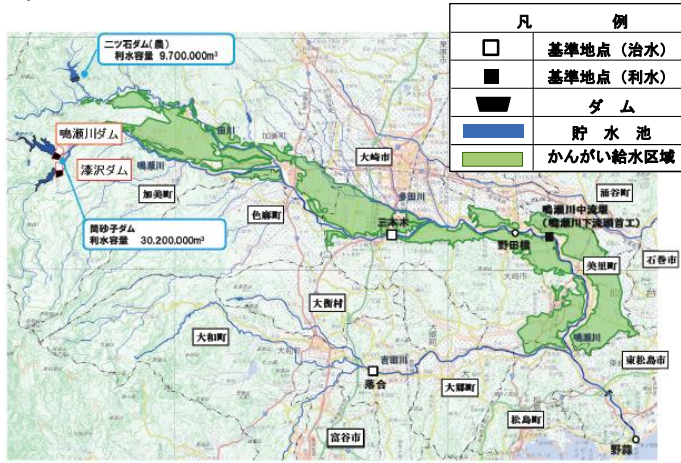
平成6年撮影

かんがい

鳴瀬川流域は、我が国有数の穀物地帯であり、大崎耕土と呼ばれています。

この大崎耕土は平成29年3月「日本農業遺産(農林水産省)」、平成29年11月「世界農業遺産(国際連合食糧農業機関)」に認定されています。

鳴瀬川ダムと宮城県が管理する二ツ石ダムにより、鳴瀬川及び田川沿岸の約9,870haの「大崎耕土」に対し、かんがい用水を補給します。



農作物を育てるために田んぼや畑に人工的に給水するための用水をかんがい用水と言うんだ。日本で使われているかんがい用水のほとんどが河川から取水されているんだよ。



発電

鳴瀬川ダムに貯めた水を利用して、東北電力株式会社が最大出力2,300kWの発電を行います。水力発電は、発電時にCO₂(二酸化炭素)を排出しないクリーンな再生可能エネルギーです。



鳴瀬川ダムには
様々な役割が
あるだあご☆



※写真はイメージです。(提供:東北電力株式会社)

今回は、簡単に鳴瀬川ダムの目的紹介でした。
もっと鳴瀬川ダムのことを知りたい方は、[当事務所HP](#)
をご覧ください。



今回は、鳴瀬川ダムの目的(役割)の紹介をしてきました。これからいろいろな事を発信し、事務所ホームページ、twitter等で広報していきます☆

twitter

